

# 会議録

- 1 会議名  
平成 29 年度第 1 回 吹上・釜蓋遺跡調査指導委員会
- 2 議題（公開・非公開の別）  
議事 1 釜蓋遺跡の調査について（公開）  
議事 2 釜蓋遺跡出土資料について（公開）
- 3 開催日時  
平成 29 年 7 月 7 日（金）午前 10 時 30 分から 12 時 00 分
- 4 開催場所  
釜蓋遺跡ガイダンス体験学習室、釜蓋遺跡
- 5 傍聴人の数  
4 人
- 6 非公開の理由  
なし
- 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）
  - ・委員 : 岡村道雄（委員長）、橋本博文（副委員長）、五百川裕、卜部厚志、黒野弘靖、小島幸雄
  - ・オブザーバー : 滝沢規朗（新潟県教育庁文化行政課副参事）、川村知行（上越市文化財調査審議会委員長）、木島勉（糸魚川市教育委員会課長補佐）、佐藤慎（妙高市教育員会主査）
  - ・事務局 : 柳澤教育部長  
文化行政課 布施副課長、新保上席学芸員、羽深主任、湯尾主任、今井学芸員、溝内主任
- 8 発言の内容  
別紙のとおり
- 9 問合せ先  
教育委員会文化行政課 TEL : 025-545-9269  
E-mail : [bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp](mailto:bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp)
- 10 その他  
別途の会議資料も併せてご覧ください。

平成 29 年度第 1 回 吹上・釜蓋遺跡調査指導委員会

平成 29 年 7 月 7 日（金）午前 10 時 30 分～12 時 00 分  
釜蓋遺跡ガイダンス体験学習室・釜蓋遺跡

議事 1 釜蓋遺跡の調査について

1 平成 29 年度前期の発掘調査について

① SI1152 について

〔報告〕

- ・ SI1152 は、調査区外の北側と南側にそれぞれ広がっているため全容は不明である。ただし、北東コーナーが検出され、長軸約 14m、短軸約 12m の長方形の竪穴建物跡の可能性が高まった。
- ・ SI1152 の周溝と考えられる遺構は、未確認である。

〔質疑・意見〕

- 委 員) 弥生時代後期から終末期の北陸北東部（能登・越中・越後）で一番大きい竪穴建物跡は長軸が 13m くらいであったと記憶している。今回報告の竪穴建物跡はそれと同等か上回る規模になる可能性があるため、慎重に調査を行い、確実に一棟の竪穴になるという情報を提供してほしい。
- 委 員) 古墳時代の豪族居館の主要な竪穴建物跡の中でも今回想定している規模のものは珍しい。
- 委 員) 釜蓋遺跡では、大型の竪穴建物跡がある程度間隔をおいて存在したような気がする。
- 委 員) SI1152 が 1 棟であるとすれば、普通の遺跡にはないような竪穴建物跡の可能性が考えられる。
- 委 員) 3C-42 グリッドでは SI1152 の上にある土が取り切れていない。
- 委 員) 3C-42 グリッドの掘り残しを掘削すれば、SI1152 が 1 棟の竪穴建物跡であるのか確認できるのではないか。
- 委 員) 前期調査では 3C-42 グリッドの確認作業と並行して、その南側（3C-32 グリッド）の表土掘削をしておくというのではないかと。

〔方針〕

- ・ 調査期間中に 3C-42 グリッドの掘り残しを掘削し、遺構の切り合いを確認する。
- ・ 遺構の切り合いを確認した後、3C-42 グリッド南側の 3C-32 グリッドの表土掘削を行う。

② 3C-44 グリッドの検出状況について

〔質疑・意見〕

- 委 員) 資料 2 に破線で示されている竪穴以外の細長い土坑状のものが、土坑なのか竪穴建物の周溝の一部なのか気になる。
- 委 員) 資料 2 の破線の部分は、大きな炭粒や土器の細片が混じり、いわゆる遺構の覆土とは違う。竪穴建物覆土の上の陥没した所に二次的にたまったものではないかと思う。
- 委 員) 資料 2 の破線部分が遺構なのかどうかはつきりさせた方がよい。

〔方針〕

- ・ 資料 2 で示した破線部分を一部調査し、その下に遺構が存在するかどうか確認する。

## 2 平成 29 年度後期の発掘調査について

### 〔報告〕

- ・ SI1152 の北側と南側を拡張して、竪穴建物跡が 1 棟かどうか確認し、建物跡の全容を把握したい。
- ・ 3C-42 グリッドの北側と南側に 10m×10m で調査区を広げて、竪穴部分のプランを確定し周溝の有無も確認したい。
- ・ SI1152 の全容を確認した後に、一部調査を行いたい。

### 〔質疑・意見〕

- 委 員) 遺跡全体の構造を把握するという意味では、今回の調査地点に竪穴建物跡があるということは明らかである。時間と予算が限られた中で最終的に何をどこまで掘るのか確認しておく必要がある。
- 委 員) SI1152 の周溝を確認するのであれば、残りのいい可能性がある南側を調査すればよい。北側と南側の両方を掘る必要はないのではないか。
- 委 員) 今回の調査で、SI1152 の東側に周溝がないことが明らかなので、拡張するにしても 10m×10m 規模で掘る必要があるのかどうか。
- 委 員) 古墳時代の豪族居館で確認されている例では、竪穴建物跡の構造が一般的なものと違う場合がある。例えば補助柱穴・棟持ち柱・壁柱穴などがあり、外観的にも構造が違ってくる可能性がある。

### 〔方針〕

- ・ 後期調査の SI1152 の調査方法については、前期調査結果を踏まえた上で検討し、各委員からの指導・意見を仰いで決定する。

## 議事 2 釜蓋遺跡出土資料について

### 1 線刻土器について

#### 〔報告〕

- ・ 前回の委員会以降、諸先生方に実物を見ていただき、ご意見を伺った。資料 7 にコメントをまとめたところである。
- ・ 諸先生方からは、積極的に魚あるいはサメではないかという意見、また一方で、小さな破片であり、具体的に何を描いているのかは判断できないという意見があった。
- ・ 市教育委員会としては、魚あるいはサメの可能性はあるものの、現段階では断定できないと考えている。引き続き、調査を行っていききたい。
- ・ また、線刻土器が見つかった地点と同じ 10m グリッドの遺物の中に、別の線刻土器片が 1 点確認された（資料 8 下段写真）。

#### 〔質疑・意見〕

- 委 員) 資料 7 の設楽教授のコメントにあるように、土器だけでなく石器や木製品にもサメが描かれているのは日本海側、特に山陰地方の 1 つの特徴である。
- 委 員) もし線刻土器がサメだと確定できれば、時代性も含めて、上越地域と山陰地方との関係を裏付ける資料になりうる。
- 委 員) サメという言葉を使っているが、これはこの地域でいうサメのことか。
- 委 員) 山陰地方で描かれているものはシュモクザメと考えられている。資料 8 上段の線刻土器は頭の部分が残っていないので判断しにくいけれど、パターンからするとそのような解釈もできるのではないかと考えている。
- 委 員) ある既成の図像としてサメはこうやって描くということがあって、稚拙に刻んだように見える。
- 委 員) もう少しスピード感を持って調べていただくと、なおよいと思う。
- 委 員) 今後この資料だけではこれ以上の検討はできない。類例を見ていくしかない。

**【方針】**

- ・ 線刻土器については引き続き注意深く出土資料の調査を行う。

**2 遺物整理作業（報告）**

**【報告】**

- ・ 昨年度までの出土遺物は、水洗作業まで全て完了した。現在、土器以外の遺物についても、特に玉作り関係の資料等がないか確認作業を進めている。
- ・ 今年度の調査区から出土した遺物も、調査と並行して水洗作業を実施している。

**【質疑・意見】**

- ・ 特になし。